

第331回

日文研フォーラム

講師◎アンナ・ドゥーリナ

モスクワ国立総合大学附属アジア・アフリカ諸国大学(ロシア) 講師
日文研 外国人研究員

八幡神、変貌するその姿

コメンテーター◎磯前 順一 日文研教授

司会◎呉座 勇一 日文研助教

2019年9月13日(金) 十四時～十六時(開場十三時四十分頃)

ハートピア京都3階大会議室

入場無料・先着一八〇名まで

申込不要(十三時十五分頃より整理券配布)

International Research Center for Japanese Studies
The 331st Nichibunken Forum

主催: 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター



日文研フォーラム

八幡神、変貌するその姿

Hachiman: the Metamorphosis of a Deity

八幡神の正体は何でしょうか。恐れられる軍神でしょうか、慈愛に満ちた大菩薩でしょうか。

古代の記紀神話に登場しない渡来系の神であった八幡神は、奈良時代に国家と仏教の守護神として九州の宇佐から奈良の都に現れて以来、各地に勧請されて急速に全国へ広まっていきました。そして平安後期には、京都の石清水八幡宮が伊勢神宮に次ぐ尊崇を朝廷から集めました。さらに八幡神は源氏の守護神、武士が戦勝を祈願する武神として信仰されました。

本報告では歴史的な展開のなかで八幡神が変貌する姿をとおして、その信仰の秘密を考えてみたいと思います。

講師 アンナ・ドゥーリナ

モスクワ国立総合大学附属アジア・アフリカ諸国大学(ロシア) 講師
日文研 外国人研究員



2005年ノボシビルスク国立大学人文学部東洋学学科卒業。2010年富山大学大学院人文科学研究科修士課程修了、2013年モスクワ国立総合大学附属アジア・アフリカ諸国大学日本史・日本文化学科大学院博士課程修了(博士号取得)。2014年よりモスクワ国立総合大学附属アジア・アフリカ諸国大学講師、2019年4月より国際日本文化研究センター外国人研究員を併任。

専門分野は、日本中世思想史、日本中世史、日本宗教。主な著作に、『八幡神の変貌—軍神か慈悲の菩薩か(中世日本における八幡信仰の形成と発展)』(クルーグ、2018)、「中世八幡信仰における神仏習合—『八幡愚童訓』を中心に」(『富山大学人文学研究科論集』9号、富山大学大学院人文科学研究科院生会、2011)、などがある。

コメンテーター

磯前 順一

日文研 教授



1997年日本女子大学助教授、2007年国際日本文化研究センター准教授を経て、2015年より現職。チュービンゲン大学日本研究所、同志社大学一神教学際研究センター、チューリヒ大学「URPPアジアとヨーロッパ」、ルール大学ボッフム宗教学研究センター、チューリヒ大学東アジア学科で客員教授及び客員研究員を歴任。専門分野は宗教学、批判理論。主な著作に『喪失とノスタルジア』(みすず書房、2007)、『ザ・タイガース 世界はボクらを待っていた』(集英社新書、2013)、『死者のざわめき 被災地信仰論』(河出書房新社、2015)などがある。

日文研フォーラムとは

国際日本文化研究センター(日文研)が、来日中の外国人研究者による日本研究の成果を市民の皆さまにご紹介し、共有していただくことを主な目的とする催しです。

1987年の設立以来、京都市中心部の会場で継続的に開催しています。

お問い合わせ先

国際日本文化研究センター 研究協力課

〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町3-2

TEL: 075-335-2078

<http://www.nichibun.ac.jp/ja/>

京都府立総合社会福祉会館 ハートピア京都

【アクセス】

- ・京都市営地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車5番出口(地下鉄連絡通路にて直結)
- ・京都市バス、京都バス、JRバス「烏丸丸太町」バス停下車